

## \* 天文台プレミュージアムほぼ完成

2008年4月に天文情報センターにアーカイブ室が置かれ、時代を経た貴重な観測器械、測定器械、天体写真乾板、記録映画、記録写真、貴重書などの収集、保存、展示を進めている。10月25日の特別公開目指して、自動光電子午環望遠鏡フロアに収集した貴重な観測器械、測定器械をはじめ種々の貴重なものを展示し、ほぼプレミュージアムとしては完成した。目玉になるものは、

- 1) 自動光電子午儀本体、南北コリメーター
- 2) つい先日発見、収集、復元し展示にこじつけたフランス製プラン子午儀
- 3) 2000年閉所の堂平観測所にあったソ連製AFUカメラ(人工衛星追跡カメラ)
- 4) 4連流星写真儀
- 5) 太陽単色写真儀(モノクロ)
- 6) アメリカ製のマン座標測定器
- 7) アメリカ製パーキンエルマーPDS(Photometric Data System)
- 8) ナルミのマイクロフォトメーター
- 9) タワー(塔望遠鏡)にあったダブルモノクロメーター
- 10) 70mmバンベルヒ子午儀
- 11) 30mmカール・バンベルヒ経緯儀
- 12) セシウム原子時計
- 13) 65cm屈折望遠鏡観測装置3点セットなどなどである。

写真1が展示室入口付近に展示された古い経緯儀類に始まる位置天文家・時計装置関係の展示である。



写真1 明治の頃の経緯儀からバンベルヒ子午儀、原子時計

写真2は、展示室東壁沿いの展示で、70mm バンベルヒ子午儀などが見える。



写真2 子午儀など見ている見学者

写真3は、PMC本体と南のコリメーター間に展示されたプラン子午儀、ガバナー、目盛環、ダブルモノクロメーターなどである。



写真3 展示室の中央に展示されたプラン子午儀など

写真4は、南コリメーター東側に展示された分光光度計、太陽カルシウムK線分光器



写真4 左から太陽カルシウムK線分光器、分光光度計

写真5は、南コリメーター西側に展示された流星写真儀、65cm屈折望遠鏡分光器などである。



写真5 手前から4連流星写真儀、65cm望遠鏡分光器

写真 6 は、展示室西壁沿いに展示したものを南から見たところで、分光素子 3 点、モノクロから測定器類が見える。



写真 6 PMC 西壁沿いの展示品

写真 7 は、PMC 本体と南側コリメーター間の展示を西側から見たところである。タワーの分光器のカメラレンズ、小さいシュミット望遠鏡などが見える。



写真 7 タワーの分光器のカメラレンズなど

写真 8 は、65cm 屈折望遠鏡（大赤道儀望遠鏡）の観測装置 3 点セットである。左から掩蔽観測接眼部、天体撮像カメラ部、分光器。



写真 8 65cm 屈折望遠鏡観測装置 3 点セット

写真 9 は、プレミアム西壁沿いの展示を北から見たところで、手前からマン座標測定器、ナルミ・マイクロフォトメーター、PDS が見える。



写真 9 手前からマン座標測定器、マイクロフォトメーター、PDS

写真 10 は、PMC 本体と北コリメーター間の展示で、ソ連製 AFU カメラ、銀河団模型が見える。



写真 10 ソ連製 AFU カメラ、銀河団模型

写真 11 は、PMC 本体と北コリメーター間の展示を東側から見たところである。AFU カメラの後姿、すばる光学シミュレーターの光源、計算機変遷展示が見える。



写真 11 ソ連製 AFU カメラの後姿、計算機の変遷の展示など

今回は、10月25日の特別公開に間に合わせるべき、大急ぎで用意した割には、本人が言うのも変ですがなかなかのものになったと思っている。このプレミュージアムは無入で見学者を入れることはできないので、見学を希望の方は筆者にご連絡いただければ、できる限り対応します。ぜひご覧ください。本格的なミュージアム目指して、収蔵を続けるつもりです。ご協力くだされば幸いです。